

木っ端拾うて材木を流す～相場の格言に学ぶ資産運用④～

「投資INSIDE-OUT～相場の格言に学ぶ資産運用～」では、国内外の市場関係者の間に古くから伝わる「相場の格言」から、資産運用にまつわる示唆を得ていきます。

◆いたずらに売買をくり返さない

資産運用では、経験を重ねるうちに日々の市場動向や保有資産の損益状況が気になってあれやこれやと考えをめぐらし、投資の手数がついつい増えてしまうことがあります。

損失を回避したいと売り急ぎ、利益が上がりそうだと買いに走るなどで、目先の動きや小さな利益に甘んずるならまだしも、ややもすると冷静な判断ができずに市場の後追いを続け、そして気がついた時には損失が大きくなっている・・・、というパターンです。



格言「**建玉の損益計算すべからず、利食い急がれ損は見切れず**」は、ひとたび株を買ったら(投資を開始したら)天底まで保有を続けること(あらかじめ定めた目標に到達するまで投資を維持すること)が理想で、**投資のなかばで損益を考えると、利食いを急いだり、損益の戻りを期待してかえって損切りの機会を見失うことになる**、という意味です。**いたずらに売買をくり返す投資行動を直接的な言葉で戒めています。**

NOTE

株式や投資信託等の売買をくり返すことで、売買手数料や投資信託の「購入時手数料(購入時に販売会社に支払うこととなる手数料)」がかさんでいくという問題点もあります。最近の投資信託では、購入時手数料が免除される「ノーロード型」と呼ばれるものが提供されており、こうした商品を選択することでコスト(手数料)を回避することも可能ですが、それでも、**高値掴み・安値売による損失発生**の懸念が残ります。

「木っ端拾うて材木を流す(小事にかまけていると大事を失う)」の格言のとおり、資産運用でも、目先の市場動向にとらわれ短期的にうまく振舞おうとすると、やがて冷静な判断ができなくなることが往々にしておこり得ます。まずは長期的観点で運用方針を定め、その目標に集中して静かに運用を継続することが重要と考えます。(花神)



【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。